

振興センターだより

☆落葉果樹苗の植え付け☆

◎時期

落葉果樹の植え付けは、11月

月中旬から12月上旬に植える

秋植えと、3月上旬から下旬に植える春植えがあります。

秋植えは、新根の発生がよく生育が良好となります。霜柱がひどいところや寒冷地では冬に苗木が傷むこともあるので、その場合は春植えになります。

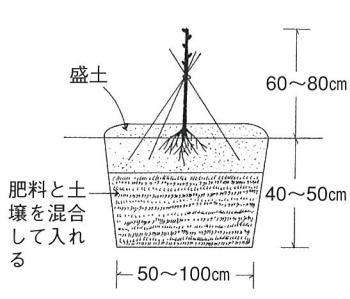
◎苗選び

枝の太くて充実し、病気のない苗を求めましょう。落葉果樹の苗木の多くは、春先に接ぎ木をして半年育成した1年生の苗木です。

良い苗木は、身の丈を越える高さまで育っています。品種の確かな良い苗木を求めるのが良いでしょう。

◎植え付け場所の選定と準備

美味しい実を収穫するには、日当たりが良く、水はけの良い場所を選びます。植え付ける場合は、直径50cm~1m、深さ40cm~50cmの植え穴



を掘ります。そこに牛糞やバクテラ由来の堆肥や腐葉土を15kg程度、化成肥料を300g程度、土と混ぜながら埋め戻します。植え付ける場所が周りより少し高くなるようにします。

◎植え付け

植え穴の中央部に苗を植え付けます。根が四方に広がるようにして植え、支柱をして苗木が風で揺れないよう固定します。

苗木は、地面から高さ60~80cmのところで切れます。苗木の周囲をリング状に土を盛り、たっぷり水をやつて根と土を馴染ませます。敷きワラやマルチをして、乾燥や霜柱を防ぐとなお良いでしょう。

◎始める1年間

植えて1年目は、背丈が低いため放つておくと雑草に埋もれて枯れることもあります。草取りを必ず行いましょう。

文芸

俳句

横芝俳句栗江会

無花果のうまごうれし我が庭に
渡り鳥今年はなぜかおくれぎみ

長谷川正子

新秋や寄り添ふ影に佇みし
渡り鳥千里の旅も迷ひ無く

今関満喜子

新涼や轍残して娘の帰える
列なししてねぐらへ急ぐ渡り鳥

若梅あやめ

焼け砂をとびはね走る夏の浜
かぼちや畠見るもあわれやつる枯れて

渡部和秋

新涼の窓より流るわらべ歌
島波るはるけき空や親子連れ

佐瀬初音

火の玉となりて太陽沈みゆく
生命の炎われに授けて

八角三枝

台風に肩すかしされたる心地して
しまひし鉢を庭に出しゆく

田崎尚美

シユーベルトの歌曲聴きゐる夫の傍に
乾きし衣類置みゐるなり

島田ますみ

磯菊の切り岸照りし潮飛沫
川島孝夫
熟れし穂の風に波打つ田圃かな
向後竟
炎帝も一緒に巡る神輿渡御
佐瀬輝夫
踵よりの着地忘れて転びたり
老の転倒気をつけぬしが

鈴木やす
メロン切るは誰に任かさむと慈ちゃんは
胸に抱きしめ家人見てゐろ

吉岡信子
庭隅に植ゑしトマトの熟れゆくを
今朝も見にゆき少し摘みきぬ

池田春江
炎熱の乾きし砂を搔き寄せて
大納言時く声をかけつづ

押尾輝子
実りゆく稻穂に宿る白き露
飛ばして風は渡りゆきたり

萩原信一
お祭りの笛と太鼓の近づくが
事務を執りゐる窓辺に届く

西山満里子
「安宅の閑」の跡を示せり

上総晴子
小松なる空港近くの標識は
機首上げて飛びゆく飛行機の

姿美し見慣れをれども
能登の海辺に染めつゝ没りてゆく

島田ますみ
華やぐ夕日に見惚れぬたしも

選者斎藤つね子

ひこばえ俳句会(互選句)

祭笛女の子の白き頸かな
淺野茂子

堵列して海より生るる雲の峯
池田逸子

夏空に相應しき雲と見てゐたり
空を占めゆく入道雲を

永藤滋
選者

伊藤敬子
忍冬や里山風は暮れ初めり